

議事録

件名	泉大津市図書館整備検討委員会		第2回
日時	平成30年10月12日(金曜日) 開始10:00～ 終了:12:00		
場所	市役所3階301会議室		
出席者 (敬称略)	委員	委員長	中川 幾郎 帝塚山大学名誉教授
		委員	前田 茂樹 大阪工業大学准教授
		委員	花井 裕一郎 一般社団法人日本カルチャーデザイン研究所理事長
		委員	木村 有香 泉大津市校長会代表
		委員	柏 保千代 泉大津市園長所長会代表(代理出席)
		委員	三井 保夫 泉大津市立図書館長
		委員	藤原 容子 泉大津市社会教育委員
事務局	泉大津市		富田教育長、丸山教育部長、櫻井教育部理事、鍋谷参事、大塚課長補佐、吉田
	コンサル タント	ランドブレイン株式会社(LB)	山北、西村(記録)
		株式会社ローカルファースト研究所(LF)	関
議題	1. 開会 2. 議事 (1) 各種意向調査を踏まえた論点整理(資料1) (2) 新図書館の位置づけの整理(資料2) (3) サービス機能と面積について(資料3) (4) 意見交換 3. その他 ・次回の日程について 4. 閉会		
1. 開会 事務局：(富田教育長より挨拶)			
2. 議事 委員長：本日は傍聴者がいらっしゃるので入室いただく。			
(1) 各種意向調査を踏まえた論点整理(資料1) L B：(各種意向調査を踏まえた論点整理について説明(資料1-1, 2, 3, 4, 5)) 各委員：(質問・意見無し)			
(2) 新図書館の位置づけ、(3) サービス機能と面積について L F：(新図書館の位置づけの検討、泉大津市図書館サービス機能と面積の考察について説明(資料2, 3)) 中川委員長：資料3、3枚目の面積の按分表について、上段の面積と、下段の合計欄の面積が違うのはなぜか。 L F：必要な機能を入れると、現状では、100㎡程多くなっている状況である。共用部分を30%とっているが、25%にすると納まると考えている。また重なってくる機能もあるので、それらについては、面積を減らせると考えている。			

中川委員長： 次の4枚目の図面の面積と、3枚目の小計の面積も一致しないが、このような形で納まるのか。

L B： 図面は、区画があるので、区画に合わせて面積をとっているため、3枚目の面積とぴったりと一致しないが、ほぼ同程度の面積がとれるということを示している。

中川委員長： 子ども連れが憩えるようなスペースは、黄色の「展示+くつろぎ+イベントスペース」でみていると理解すればよいか。

L F： 1枚目に機能と面積の整理をしているが、プレイコーナーの100㎡、ギャラリーの60㎡、ゲームコーナー30㎡を含めて、「展示+くつろぎ+イベントスペース」の部分にはまるような形で整理している。

中川委員長： 面積の整理案でのカテゴリズと最後の図面が対応していない。今のような説明がわかるように図示していただければと思う。

中川委員長： まずは論点1、新図書館の位置づけについて意見をいただきたい。

前田委員： 現図書館を活用する話は、ヒアリングから出てきた話で、良い案ではないかと思う。そうすると現図書館を改修しないまま使うのか、新図書館を整備する予算を少しでも割けるのかどうなのか。市にお聞きしたい。

データベースを一元化するのは良いと思うが、読書量を増やすということ言えば、完全に公開していくことが必要ではないか。図書館に行かなければアクセスできないということだと今の社会だと成立しないのではないかと思うので、伊丹市などそうだが、ヤングアダルトコーナーの混雑具合、図書館の貸し出し状況を、ネット、スマートフォンで簡単に見られるような環境づくりを、小学校の図書とあわせてできると良いのかなと思った。セキュリティの問題もあるが、誰でもみられる環境づくりが必要である。

議論を進めるなかで、親と一緒に来る子ども、小中学生向け、20代前後の人、3つのターゲットに分けて戦略を立てていった方が良い。そのネタは、アンケートの中にある。

20代前後向けには、漫画コーナーがあっても良いのかなと思う。歴史がよくわかるものがあるので漫画が悪いということもないのかなと思う。その横に歴史の本を置くなどのメディアミックスは20代に対しては有効だと思う。

小学生向けには学校との連携、人材的な交流が有効だと思う。

子育て中の親子向けにはスペースが重要であり、横に授乳室を設置するなど、物理的な対応が有効かと思う。

藤原委員： 資料1-1、学校の教室ごとに書架を置いてはどうかという提案はすごく良い案だと思う。活字離れといわれているが、近畿大学の図書室では、料理のコミックの横にレシピ、料理に関する本などを置くと、両方とも借りられるため、貸し出しが多くなったという成功例がある。コミックも活字を読むので、コミックを充実しても良いのかなと思った。

本の病院の提案があるが、ワークショップに参加したとき、今の図書館で本を借りると手が痒くなるとか、汚いといった声もあった。また、良書が2階の書庫に入ってしまった、手に入らないという要望もあった。本を殺菌してくれる機械が、和泉市の図書館にはあるらしい。プライオリティもあるが、そういうものもあってもいいのかなと思った。

りぶれEBISUのヒアリング結果があったが、スタッフ9名とあるが、現在は8名となっている。高校生が大学生になったら、ぱたっと来なくなった。高校生のお姉ちゃんが来ているときは、子どもたちも高校生になったらボランティアをしたいと言っていたので、大人の関わり方で変わると感じた。その第1歩で、教室に図書があるのは非常に良いと思った。

中川委員長： 予算については、今後の委員の発言にも影響するので、お答えいただきたい。

事務局： 本日の資料は初めて出す内容であり、こういうものが必要であるということになれば、予算を確保していきたいと教育委員会では考えている。

ただし、公共施設の最適化の計画があり、市全体のなかでの位置づけについても議論が必要だと思っている。現行の図書館については、駅前に移転した後、すぐに何かに使う計画は現時点ではないので、こういう提案をしているが、庁内でしっかりと議論をしていきたい。

中川委員長： 確定しているわけでないということである。

前田委員： 意見のなかでも、ワークショップをして、大学生も関わりながら改修していくことも考えられるとあったので、必ずしもお金をものすごくかけないとも良いものがないということでもないのかなと思っている。

三井委員： 現在の図書館に勤務する者として、いろんな層に利用いただくことで、初めて市民から愛される図書館となり、賑わいも生まれてくると考えている。そのなかで、お年寄りと若者はなかなか図書館の中では交わらないと感じている。はっきり枠を分けるのではないが、各コーナーで話ができるようにすると良いかなと思う。大きな声を出してもいいような雰囲気の良い図書館だと良いと思う。今回のゾーニングはそういう観点もあり良いと思う。

読書量日本一を掲げるなかで、以前から言っているが、借りやすく、返しやすくが必要である。借りるのは良いが、返すのは邪魔くさいという方がおられる。分館など、返却するところが数か所あっても良いと思う。駅前、極端に言えば、コンビニなど。市民の利便性を向上させる心がけも必要だと思う。

花井委員： 学校図書館との連携は大賛成であり、学校一元化、ぜひやっていただきたい。予算管理も実現可能ではないかと思っている。

駅前ヒアリングは、大学生がほとんどなので、資料として少し偏りすぎではないかと感じた。駅前にできるということなので、主婦層やサラリーマンの方など、少しサンプルを深くとっていただけるとありがたいかなと思った。

クリーニングの機械は予算さえあればすぐには買えるので、買っていただきたい。今、図書館で問題になっている。また、借りられて、返すときに汚れていて不安な時もある。幼児に貸し出す時などは特にあると思うので、今の図書館でも、なければすぐに買っていただきたい。漫画については私も興味を持って、他の自治体でもチャレンジしようとしている。人生百年時代と言われているなかで、若者だけではなく、40～50代も漫画を使って生涯学習をするということが増えてきている。漫画の充実は、若い人以外にも重要なコンテンツになりえる。

いろいろなヒアリングを行い、整備方針も出ているが、運営をどうするのがこれからということだと思う。整備の仕方はいろいろあるが、そのあと、直営にしる民営にしる、倍以上になる面積のなかで、ランニングコストに対する行政の覚悟がはっきりしないと、広い面積だけつくって、スタッフがいらないということでは良い図書館とならない。

私の計算だと、20人以上スタッフが必要となる。現状9名ということだが、様々な取組をしようとする25人ぐらいは必要ではないか。どういう人事でいくのか、コストをどうするのか。これから議論のなかでも検討に加えても良いと思った。

ワークショップの写真をみると女性に偏っている。図書館を利用されている方が主であったとのことだが、次の図書館は、これまで図書館を使っていない方々にターゲットを絞らないといけないところで、人選を広げる必要があったのではないかなと思った。

地域とのコミットの仕方が大事となる。駅前につくることで、地域がどう変わっていくのか

を念頭において考えていかないと、良い図書館ができました、使ってください、ではそれだけで終わってしまうので、これができることで泉大津がどう変化していくのか、どこかで議論しても良いのかなと思った。

中川委員長： 運営については、資料1-1の論点整理の3に運営のあり方があるので、第2ラウンドで議論していただければと思う。

木村委員： いろんな機能があり良いと思う。ヤングアダルトの対象は中高生とあるが、小学生たちも行きたがると思う。区分けをするのか、雰囲気や寄せ付けないようにするのか、どうするのかかなと思った。

図書館と小学校の学級文庫との連携はありがたいが、それを実現するには人の数が必要になる。先生方は日頃の業務で手一杯であり、自分たちがそれをしなければならぬのではないかと心配していた。実施するには人の確保を考えてほしい。

学校の司書の方は週に数回しか来られないため、連携するにしても、図書館の本か、学校の図書室の本か、わからないのではないか。学校の本も整備しないと連携がうまくいかないのではないか。

本のクリーニングの話があったが、本を汚させない工夫も必要かと思う。出入口での手の消毒や予算があれば、空気をきれいにする設備などもあれば良いと思う。

柏委員： 就学前の0～5歳を担当しているので、その観点から説明を聞かせていただいた。親子にとって図書館はいきたい、過ごしたい場所であってほしいと思う。マナーなどもあると思うが、幼児はどうしても声が出てしまう。その中でも気兼ねなく居られるようにしてもらえると良い。お話の会などは現在でも開かれているが、利便性や出にくいなどの理由で、参加する機会の少ない方もいらっしゃるので、こういう場所で機会を作っていただけるのはありがたい。

親子でくる場合はベビーカーの置き場などが必要である。いろいろな年代の方が利用しやすいような、移動手段、利用手段も考えていただけると良い。

小さい子供がいるということで、安全で安心な場所であるかが重要かと思う。広い場所もあるので、レストランやショップがあると目を離しがちでもある。エレベーターなどが近いと心配であるため、そのあたりに人を配置するなど安全な空間としてほしい。

本の病院についてはありがたいと思う。園の方で、絵本の貸し出しをしていただいているが、破損しつつある絵本が混ざっている。そういうことを気にしないで借りられるとよい。また、本の病院の作業などについても、なかだけでやるのではなく、その情報を公開してもらえると、子供にも本を大事にしないといけないという意識を育めるのではないかと思う。

中川委員長： 各委員からの意見では、図書館の位置づけには大筋賛成だったかと思う。むしろ、この通りできるのか、お金は足りるのか、人の手当てはできるのかという心配があった。この資料を出す際に、財政当局と対話されたか。

事務局： イメージはお話させてもらっているが、運営コストも含め、一定の事業費については、次回までに整理する予定である。現時点では最低職員人数での運営なので、指定管理にしても直営にしても、今よりもコストが上がるとは伝えているが、具体的な数字が見えていないので、次回深い議論になると思う。

前田委員： 現図書館の改修の予算の話をしたが、現図書館についても人件費がランニングとしてもかかってくるということか。

事務局： 体制にもよるが、2階に別の部署が所管するにんじんサロンが入っており、そこの兼ね合いもある。人を配置するかどうかということは別の議論になるかと思う。

中川委員長：この委員会としては、与えられている条件のなかで、何を抜かしてはいけないか、何を確認して、何をビルトインするかに力点を置けば良いと思う。予算から逆算して機能を検討するというのでは本末転倒ではないかと思う。与えられている条件のなかで、見落としがないかという議論が大事ではないかと思う。

新しい提案も出ている。漫画についてはこれまで図書館ではあまり扱われてこなかったが、図書館サイドと行政サイドで検討していただければ良い。委員としては否定的な意見はなく、メディアミックス、これからの情報社会に子供たちが太刀打ちするためには有効ではないか。漫画から入って、本格的な本にアプローチするケースもあるだろう。私たちの子供時代もそうだったかもしれない。

花井委員：国家戦略でもあり、何兆円産業ともいわれている。ビジネスとしても考えた方が良い。

中川委員長：そうすると、図書館長をはじめ司書の方々の選書機能が非常に重要になる。

三井委員：現在も、漫画は子どもの児童書のなかには入ってきている。一般のところにも漫画的なものはある。今も購入しているが、その割合を全体の予算のどのくらいにしていくのか。図書館のイメージアップのための戦略の一つだと私は考えている。

中川委員長：泉大津が漫画で子どもたちを集め始めたとなると、ニュースになる可能性はある。

前田委員：並べ方、見せ方だと思う。漫画だけのコーナーをつくるのか、漫画と図書をミックスで、教育の一環として、みんなで理解して取り組むのか。

中川委員長：人材という点について、大事なことは、市民のNPO団体や読み聞かせのボランティア集団とどう連携していくか。高校生や大学生もボランティアとして育つようなことをしてはどうか。有効だと思うのは、中学生の職場体験。兵庫県はトライアルウィーク。中学生の職業体験。泉大津としてもやっても良いのではないか。

三井委員：泉大津市でも教育委員会として行っており、図書館も毎年2名、受け入れを行っている。

中川委員長：それは良いことで、図書館として受け入れ人数の枠を増やしていけば良いと思う。

花井委員：図書館がワーキングプアを出す組織体になっている現状もある。最低賃金だけ守れば良いのではなく、司書など知識のある方の生活をどう支えていくのかについて、行政として覚悟してほしい。

中川委員長：次に、資料3を中心にご意見をいただきたいが、論点3・4については意見があっても良いだろうか。

事務局：論点3・4の資料については、次回お示しする予定であるが、本日ご意見があれば賜っておきたい。

前田委員：平面図のゾーニングは、少なくとも3案程度出していただき、様々な層からみたメリット・デメリットを整理していただけると良い。

金沢の未来図書館では、入ったところに小さい子どもがいて騒いでも良いところがあり、階段を上がると奥には静かな場所があり、従来一番入り口にある新聞コーナーが3階にある。一般のセオリーとは違うが、お互いにとって良い空間となっている。現在の図書館も、大学生から見ると、お年寄りが大勢おられて座りにくいという意見もある。

動と静を分けた場合はどうなるのか。バッファをどう取るか。レストランを中心にとるということもありなのかなと思った。武蔵野プレイスのように、レストランショップをインフォメーション的に機能させながら中央に置いても良いと思った。

そうすると児童書コーナーがE V前に行くかもしれない。子どもがエレベーターに勝手に乗ってしまうため危険であるが、それを防ぐための手立てがあればそれでも良い。配置が運営

の検討にもつながるかなと思った。

藤原委員：千代田区では、ビルの9階・10階が図書館になっており、人口は4万人程度であるが、昼間の企業の方が100万人いらっしゃる。神奈川県大和市では、図書館がきれいになった。近隣からの移住者が増えてきているとのことである。話をしても良く、スマホもOK、ビジネス図書は貸し出さないなど、全国の図書館で様々な取組が展開されている。

主婦も駅前に買い物にも行く、ついでに、立地はすごく良いと思う。

読書量が多いのは秋田県の中学3年生、同じ県が学力も1位となっている。読書が大事だと思う。

りぶれEBISUでは、家族ぐるみで参加してくれる人もいる。また、校区外から病気を持ったお年寄りの方も来られる。図書館が新しくできるのは良いが、スタッフの力が重要なと思う。駅前というだけですごく良いと思う。

三井委員：昔の図書館のイメージでは、物を食べてはダメ、静かにしないとダメ、勉強をしてはダメ。この3つが絶対的だったが、今は市民ニーズが変わってきている。

今の図書館の2階にヤングアダルトコーナーを作ったら、いろんな子が来るようになった。騒がしいなどの弊害もあるが、今は我慢、来てもらうことが第一という考えでやっている。2階で本を読んだり勉強したりする子も増えてきていると実感している。そういうコーナーを考えていかないといけないかなと思っている。

中川委員長：新しい図書館では、3つのダメは外すということである。藤原委員の意見とも関連するが、いろんな世代の人が交わるようなことも必要かと思う。

花井委員：海外の図書館ではそれは当たり前であり、ナンセンス。なぜ日本の図書館がそのようになったのか疑問を持つが、サイレントルームは必要だと思う。海外の図書館事例も見てはどうかと思う。筑波大の先生がオランダの図書館の本などを書かれている。議論する必要はないが、勉強しておくのも良いと思った。

障がい者の方に対するヒアリングを追加できないか。「騒がしい」ではなく、「賑やかな」図書館ですよという、障がいのある方もたくさんの方で来ていただけた例がある。団体貸し出しで絵本を借りるのも良いが、本に囲まれて、他の人と同じように過ごしたいという想いがあると聞いたことがある。また、高齢者で家から出られないけれど、本を借りたい方の意向など、少しでも良いので、資料があれば良いと思った。

蔵書冊数の書架の冊数、1段を30冊で計算されている。私たちも同じように計算するが、バッファがある計算式で、40～50冊入ったりする。その幅の中での30冊で計算したらこのような面積になるという共通理解をしておいた方が良いと思う。実際はもっと入る。7段はあり得ないので、6段で30～50の間で検討すると、もう少し余裕が持てるかなと思う。

木村委員：本を読むという機能と、人が憩う機能があり、音の遮断が必要だが、ヘッドフォンの貸し出しなども有効かなと思った。

こだわってほしいのは、行きたくなるような気を惹くデザイン。本棚一つにしても、本や勉強が嫌いな子が行きたいと思うようなデザインの机や椅子を考えてあげてほしい。

小さいときに行っていると、小学校になってもずっと行く。幼稚園で親子が本を読みに来れるようなスペースがあるが、新しい図書館でそういう日を作ってあげて、来る習慣を作る、来ることに慣れることも大事なかなと思った。

中川委員長：ブックスタート事業はやっているのか。また、その拠点は。

三井委員：やっている。保健センターで、4か月検診時に実施している。

中川委員長：それは、幼稚園や保育所との連携のもと実施しているのか。

三井委員：図書館のボランティアの読み聞かせをする団体と連携して行っている。

花井委員：その時に司書の方は行っているのか。

三井委員：1人、職員が付いて行っている。

柏委員：自習室、勉強室は少し硬いと感じた。スーパーのフードコート等で、本を積んで、お話をしながら、勉強している学生たちを見かける。そういう場所が大学生にとって良いのかなと思った。少し話しながら、意見交換ができて、勉強もできる、そういう空間あれば、図書館に行って、休憩がてら本を見て、誰かがいたら議論してと、行きやすい空間になるのではないのか。

貸し出しについても、小さい子育て世代は行きづらい。ネット環境を利用した貸し出しもできれば良いかなと思った。また、子育て世帯は自分のことに気が向きにくい。親のためにも、本に触れあえる機能が新しい図書館のなかにあれば良いかなと思った。

中川委員長：確認だが、平面図のイベントスペースに子供が遊ぶ場が含まれているとみているが、カテゴリーは幼稚園児くらいか。乳児・幼児は入っているのか。

L F：基本的に年代別に細かく対象を分けて考えようとしている。

0～5歳くらいまではお母さんと一緒にお見えになるので、少し騒いで良いプレイコーナーと、小さな乳幼児の方がお母さんと一緒に絵本を体験できるような絵本コーナーがあるので、どちらを使っても良い。

小学生は児童コーナー、中高生は専門のスペースとしてヤングアダルトコーナーをとっている。

中川委員長：プレイコーナー、自由に遊べる空間について、誰か見ている人はいるのか？子連れのお母さんが来やすい図書館を考えると、親子で読み聞かせをするというアクティブな話だけではなく、私が本を探す間預かってくれというような託児機能まで考えているのか？

L F：見ている人はつける予定であるが、託児的なことまでは考えていない。

中川委員長：ゾーニング案、複数案だせるか。

L B：検討したい。

中川委員長：静かにするところとうるさくするところ、バッファを考えた時にどういうレイアウトになるか見たいということなのでお願いします。

世代的に分立するのではなく、どこかで交流ができるレイアウトも検討していただきたい。レイアウトだけではなく、人的技量の問題もあるが、それが議論できるような資料としてほしい。

木村委員：マクドナルドやスタバで、インターネットをつなぎながら、食べながら勉強する子供たちを夏休みによくみる。カフェやレストランでも、本を借りてきて読んだり、勉強できたりすると、どの世代にも良いのかなと思った。

息子に聞いたが、人に勉強しているのを見られている感があるのが良いと言っていた。

花井委員：デザインがすごく効いてくる。椅子が単独で置いてあったり、いろんな空間をつくってあげると、多世代が滞留し、交流できる空間となる。ただし、それは設計の段階であり、現在の図面は、面積どりパターンであり、正確な図面ではないという認識も必要である。

藤原委員：照明は決まっているのか。テレビで、「光天井」というものを紹介していた。子供は書架から取り出してその場で読む、いろいろなところから光がさして、影ができない天井もある。

前田委員：先ほどもデザイン、目に見えるものは影響力があるので、面積の整理の資料で張り付けてある写真も、研修室、会議室など硬いものが載っている。行政資料だから、良いということで

はなく、こういう研修室だと使うだろうなという例を載せていただいた方が良いかなと思った。日本だけの例ではなく、海外の例なども調べてほしい。調べたものは、開示いただくと、議論が広まって良いかなと思う。

中川委員長：花井委員から、我々も勉強していく必要があるとの指摘があった。この委員会が永遠に続くわけではないので、図書館をバックアップしてより良くしていくための市民参加型の常設型の委員会も必要ではないかと思う。

図書館法では、図書館運営協議会があるが、図書館長の諮問機関であり、図書館長の地位が行政の中でどの程度なのかによって、答申の重さが変わってしまう。以前、私が携わっていたケースでは、運営協議会の委員長は、自動的に社会教育委員を兼ねていた。そういう仕組みをつくるのか、あるいは社会教育委員会のなかで、図書館の運営基本方針をつくっていくのか、社会教育委員会では荷が重いのであれば、生涯学習審議会のような場で、図書館に関する基本方針、基本計画をつくっていくのか、計画づくりと、諮問、答申などの委員会の設置も、今後の運営体制のあり方のなかでは、重要になってくるのではないかと思った。

図書館運営協議会は任意設置なので、つくっていない自治体もある。

参画と協働を泉大津市が行動規範とされているのであれば、ない方が問題となってくる可能性がある。

マイノリティの方がどのようにこの図書館を使うのかという意向調査をしてほしいという指摘があった。在住外国人などは居住比率が高いところは8%程度になっており、子どもたちにとっては、絵本が重要になってくる。視力障がい者向けの点字図書、録音図書についてのコーナーリングを設計されているのか。膨大な書架はいらないが、検討してほしい。デザインも大事にしてほしいということである。机やいすなどの什器を、カラフルで楽しいものにするなど。

また、話せる空間を作ってほしいということで、バッファをどうとるのか、区分けの設計に関わってくる。

新たな意見として、バックアップする組織として、運営委員会的なものが必要ではないかということで、これについては次回議論したほうが良いかなと思う。

前田委員：太田市美術館・図書館では、地元のものづくりの方が参画して家具などを作られていたが、運営協議会でそのような方針を決めたのか。

花井委員：行政の方で、ものづくりのまちなので、どのように太田色を出していこうかという議論があって、最終的には設計者からの提案で、ものづくりの職人さんたちと、話し合いをして家具をつくっている。

前田委員：デザイン料は高いという認識を持たれる方は多いと思うが、地元の頑張っている方に製作してもらうなどで、オリジナリティを出せると思うので、高いデザイナー料を払わないと、良いものがないとか、海外のものをいれないということではない。

花井委員：太田市はスバルの工場がある町で、車の部品をつくる工程の技術をつかって、職人さんとコラボレーションして家具を作っている。泉大津ならではの機材や職人の腕を使っているものが作れる。

中川委員長：今回は、論点の3・4・5に向けた整理になる。

運営体制のあり方についてはシビアな議論となるので、基本的な情報については、事前に理

解したうえで、会議にのぞんでいただきたい。

委員から指摘があったが、新しい図書館にどういう人に来てほしいのか、この図書館を通じて、0歳から高齢者までがいきいきした社会ができるというイメージを持って、アクティブで攻撃的な図書館をイメージしていただいて、たくさんの人に集まってもらう、市民社会形成のための図書館をイメージして議論していただければと思う。次回からはソフト、ヒューマンを中心に議論をお願いしたい。

前田委員：整備方針として、デザインビルドが示されている。今回は改修工事であり、コストコントロールは効きやすいため、必ずしもデザインビルドしか選択肢がないわけではない。コストありきになると家具メーカー等、安く調達できるものでやりましようとなる。どういう図書館にしたいか、設計者と議論しながらコストもコントロールできる、設計者と建設を分けての発注も可能かなと思っている。

箕面市で受託した設計業務で、総合評価方式による一般競争入札がある。普通の入札は金額だけで設計料が安いところに決まるが、設計料と提案の比率を1対2にして、両方を評価して落札者を決める方式であり、国交省で認められている。今の資料だとデザインビルドだけしか方法が無いようにみられてしまうので、一つの方式として入れておいていただきたい。

中川委員長：論点4はもう少し多様な選択肢があると思うので、今のお話も含めて、選択肢を加えておいた方が良くと思う。

3. その他

・次回の日程について

事務局：第3回は11月15日(木)10時～開催する。追って、開催通知は送付させていただくが、ご予定の程、よろしく願います。

4. 閉会

事務局：(丸山教育部長より挨拶)

以上